

令和5年度

土成小学校  
学力向上実行プラン

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

「主体的に学習に取り組み、学びを伝え合い、高め合う児童の育成」  
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 植原 康貴	委員	吉本美香 下山貴志 美馬美和子 岡山千春 植原康貴 佐竹有美
	校長・総括 教頭・総括補佐 教諭・教務主任 教諭・研修主任 教諭・学力向上担当 教諭・特別支援コーディネーター	

校長

吉本 美香

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

全学年が研究授業をする。報告会を持つ。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや計算力など基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている。 ●学習規律の定着や話をしっかりときくことに課題がある。 ●文章を読み取る力や自分の言葉で説明する力に課題がある。	・基礎的・基本的な知識技能を確実に身につけ、他の学習や生活の場面において活用することができる。 ・相手の話を聞き、自分の考えと比べることができる。 ・語彙が豊かで、正確に文章を読んだり書いたりできる。	・学年に応じた基礎的・基本的な内容を朝の学習や補充学習で繰り返し練習する。 ・聞くトレーニングを全校で計画的に行う。 ・学年に応じた詩文の音読をする。 ・児童間での読み聞かせを行う。	・引き続き、聞くトレーニングを学年に合わせて行う。 ・学年に応じてタブレットを活用したドリル学習を行う。	・詩文の音読や、タブレットを活用した学習を積極的に実施したことにより、基本的な知識・技能の習得は概ねできた。 ・聞く力は徐々に増えてきたが、友達の考えと自分の考えと比較するまでには至らなかった。	・引き続き、聞く力を伸ばす指導を行い、定着させることができるようにする。 ・自分の考えを他者の考えと比較できる場を意識的に設定する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを積極的に表現しようとする児童が多い。 ●相手意識をもって表現することに課題がある。 ●根拠や理由を明らかにした意見を述べたり、文章にしたりする力に課題がある。	・目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを進んで話したり書いたりすることができる。 ・相手の考えを踏まえて、自分の考えを表現することができる。	・聴き方や話し方のモデルを提示し、授業で活用する。 ・ICT支援員と連携し、タブレット端末を活用する。 ・朝会等で学習したことを発表する機会を設ける。	・ペアやグループで伝え合う活動を設定し、自分の意見を伝え合う機会を設ける。	・学年の発達段階に応じて、活動の機会を取ることができた。 ・理由や根拠を明らかにすることができるようになってきたが、全体で積極的に表現する児童は一部に留まった。	・全体で自分の意見を伝える場を設ける。 ・他学年も、学習したことについて発表する機会ができるように計画する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○物事を前向きに捉え、課題に最後までできちんと取り組むことができている児童が多い。 ●自分から課題を見つけたり、それを解決しようとする力に課題がある。	・自ら課題を見つけ、意欲的に課題解決を行うことに学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。	・水曜日のノーメディアデーを継続し、主体的に学習に取り組む時間を設定する。 ・学習の手引きを配布するとともに、学習・生活チェックを行い家庭での学習習慣を定着させるようにする。 ・めあてや振り返りを位置づけた授業を展開する。	・引き続き、メール配信を行い、家庭への啓発を行う。	・生活チェックは家庭への啓発になり、意識的に児童が改善しようとする機会になった。 ・めあてや振り返りを位置づけたが、意欲的に課題解決をするには至らなかった。	・引き続き、学期に一度の生活チェックを続けていく。 ・授業の導入を工夫するなど、児童が意欲的に課題解決ができるようにICTを効果的に活用する。

令和5年度 学力向上ロードマップ



